

講義要項

— syllabus —



札幌大谷大学

札幌大谷大学短期大学部

目 次

X006100	幼稚園実習	大澤 亜里	前期集中	...	1
X006200	保育所実習	大澤 亜里	後期集中	...	3
X006300	施設実習	遠山 景広	後期集中	...	5
5021400	保育実習	A 大澤 亜里	後期集中	...	7
5021801	教育実習	ab 森川 由衣	通年	...	9
5021900	教育実習	田中 住幸	前期集中	...	11

授業科目	幼稚園実習						
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1604			ワデマド科目	

授業概要

主に札幌市立幼稚園において実習を行い、本科での学びや経験を通して築いた保育観をさらに深めます。実習は8月後半から9月前半までの3週間行い、その内容は実習園に委ねます。事前指導では、札幌市立幼稚園の特色（自由保育的保育形態や障害児の積極的な受け入れなど）について学び、そこでの教師の保育観や子ども観、教育課程や指導計画、環境構成等について実習を通して学び取ることができるよう準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。
この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

子どもの自発性を引き出す教師の関わり方について自分の意見を述べるができる。
チーム保育の在り方について自分の意見を述べるができる。
幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本がどのように実践されているか理解し、説明することができる。
自身の課題を発見し、その解決に向けての道筋を立てることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

<input type="checkbox"/>	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
<input type="checkbox"/>	2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
<input type="checkbox"/>	3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
<input type="checkbox"/>	4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
<input type="checkbox"/>	5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習園の評価	50%		
実習日誌	25%		
実習報告書・報告会への参加	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に対する反省を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業計画の実施に当たっては、幼児教育課程特論との連携で実施します（事前事後指導について）。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	事前指導	札幌市立幼稚園の特色と実習の心得について学ぶ。
第2週	実習園との事前打ち合わせ	実習園と調整のうえ事前に訪問し、実習内容や準備物等について知る。
第3週	見学・観察・参加実習	実習園の指導のもと以下の実習を行う。 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する。 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する。
第4週	部分実習・全日実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う
第5週	保育科教員による研究保育日の巡回指導	研究保育日の日に教員の巡回指導を受ける。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、自身の課題を整理する。 実習報告会に参加する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育所実習						
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1601			ワデマド科目	

授業概要

保育所にて実習を行い、これまで学んだ保育の理論が実際の子どもの関わりや保育者との関わりを通して、より理解を深めます。実習園との調整により2月に10日間行い、その内容は実習園にゆだねます。事前指導では保育所・認定こども園の目的や役割について、また保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について理解を深めます。またこれまでの実習を踏まえて自身の実習課題を決め、実習に向け準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。
この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

保育所や認定こども園の役割について説明できる。
実習計画、課題を明確にし、説明できる。
保育者の役割を理解し、自分なりに実践することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

<input type="checkbox"/>	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
<input type="checkbox"/>	2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
<input type="checkbox"/>	3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
<input type="checkbox"/>	4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
<input type="checkbox"/>	5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習園の評価	50%		
実習日誌	25%		
実習報告書の作成	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に 対する反省を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で実習課題を立て、実習園の保育方針に合わせて検討を行っていきます。選択する学生は実習に対する目的意識を持って準備してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	事前指導	保育所・認定こども園の目的と役割について学ぶ。 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学ぶ。 これまでの実習の評価、反省をし、自らの実習課題を決める。
第2週	実習園との事前打ち合わせ	実習園と日程を調整し事前に訪問し、実習内容や準備物等について知る。
第3週	観察・参加実習	実習園の指導のもと、以下の実習を行う。 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する。 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する。
第4週	指導実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う。 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる。 その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う。
第5週	保育科教員による巡回指導	実習期間中に保育科教員による巡回指導を受ける。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、課題の整理を行う。 実習報告会に参加する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	施設実習						
担当教員	遠山 景広	配当年次	1 年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1602			ワケマド 科目	

授業概要

本科での保育実習や関連科目で学習した知識と経験を活かし、さらなる実践力を磨くことを目的とします。受講生は各自、実習における課題を事前指導の中で設定し、課題に基づいて実習に取り組みます。そして、実習課題に基づいた実践と結果の関連性を考察し、自分の実践の意味をより深く考えることで、実践力を向上させることを目指します。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

課題を踏まえた実習を通して、自己の実践の意味に関してより深く理解する
利用者個々のニーズに応じた援助方法について実践を通してより深く理解する
課題を踏まえた実習を通して、保育者としての自己の課題をより明確化する

学科のディプロマ・ポリシー

<input type="checkbox"/>	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
<input type="checkbox"/>	2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
<input type="checkbox"/>	3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
<input type="checkbox"/>	4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
<input type="checkbox"/>	5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習園の評価	50%		
実習日誌	25%		
実習報告書	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
本科での実習の振り返りを通して、さらに学びたい課題を明確にして、事前指導及び実習に臨むようにしてください	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で実習課題を立案し、実習施設の形態に合わせて検討を行っていきます。選択する学生は実習に対する目的意識を持つようになしてください

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	1. 事前指導 本科実習の振り返りと施設の概要	これまでの実習を振り返り自己評価を行いつつ、実習を行う施設の概要について学ぶ
第2週	1. 事前指導 実習課題の設定	自己評価の中で特に今回の実習で重視したい課題について整理し、その課題にかかわる学びを深める
第3週	1. 事前指導 実習計画書の作成と検討	実習計画書の作成方法を確認し、計画書の作成準備を行う
第4週	1. 事前指導 実習計画書の作成と検討	自己評価と課題、実習計画作成の注意点を踏まえ、実習計画書を作成する
第5週	2. 事前打ち合わせ	事前打ち合わせの際に確認が必要となる内容、注意事項を確認する
第6週	2. 事前打ち合わせ	確認した内容を踏まえて打ち合わせを行い、実習の具体的なイメージを作り実習に臨む準備を進める
第7週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習	実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る
第8週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習	利用者の一日の生活の流れを知り、利用者の活動と職員の援助を観察する
第9週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習	実習担当職員の指導を受けながら、利用者と活動を共にし、利用者へ援助補助をする
第10週	3. 実習内容 2) 援助実習	担当職員の指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する
第11週	3. 実習内容 2) 援助実習	各自課題を設定し、援助計画を立てて実習する
第12週	3. 実習内容 2) 援助実習	その他、利用者との活動や生活上必要となる援助について学び、職員とともに必要な活動を行う
第13週	4. 事後指導	実習前に設定した課題について確認し、達成状況や反省点を整理する
第14週	4. 事後指導	実習を通して得られた課題を整理し、今後保育者としてどのように活かすか、改善したいかを考える
第15週	4. 事後指導	実習報告会に参加し、課題や解決方法について意見交換を通して課題を多角的に理解し、解決方法の検討を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育実習 A						
担当教員	大澤 亜里 / 柘植 純一	配当年次	1 年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1602			ワケマド科目	
授業概要							
<p>認可保育所で、10日間の実習を行う。 既習の保育関連科目での学びを生かして、保育現場での観察・参加実習を行う。 毎日の実習に当たっては担当保育士から指導を受け、事前準備する。 実習内容は実習日誌に整理し、担当保育士の指導を受け、自己評価を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>							
到達目標							
<p>実習生としてふさわしい態度を身につける。 子どもの保育及び保護者への支援を中心に保育所の役割や機能を具体的かつ総合的に理解し説明できる。 子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めると同時に、保育士の業務内容や職業倫理について理解し説明できる。 毎日の実習内容について記録及び自己評価を行い、その意義について理解し説明できる。 今後の学習に向けて具体的課題を持ち、報告書に整理することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1.人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
	2.知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
○	3.協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4.知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	実習園の評価	50%					
	実習日誌	25%					
	実習報告書・報告会への参加	25%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
「保育実習指導」の内容をふまえてしっかりと事前の準備を行いましょう。終了後は日誌等の記録を見なおしながら報告書を作成し、次の実習に向けての課題を整理しましょう。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
授業の中心は学外での実習となります。大学では、実習の事前準備と実習を終えての事後指導を行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	事前オリエンテーション	実習園と相談をしたうえで、指定の日時に実習園を訪問する。
第2週	実習報告会への参加	実習報告会に参加し、先輩たちから実習前の準備や実習中の体験などについて話を聞く。
第3週	見学・観察・参加実習	実習園の指導のもと、以下の実習を行う。 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。 実習園の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。
第4週	実習記録	1日の実習内容を日誌に記録する。
第5週	専任教員による巡回指導	実習期間中に専任教員による指導を受け、実習前半の反省を行い、後半の課題を明確にする。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、自身の課題について整理する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育実習 ab						
担当教員	森川 由衣	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1604			ワデマド科目	

授業概要

附属幼稚園において毎週、通年観察実習する。
 観察視点に沿って観察・記録しその後、観察内容についての疑問点などをカンファランスする。
 記録は次週に考察を加え提出する。
 「子どもとは...」「保育者とは...」「幼稚園とは...」「子どもとの関わり方」などの理解を深め、子ども観、保育観などを考え、築いていく基礎を学ぶ。
 観察の他に指導演習（学外実習事前指導・折り紙指導・わらべ歌など）を行う。
 附属幼稚園において2日間の参加実習を行う。

この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

観察視点に沿って観察することで、子ども観、保育観などを考えていく基礎を身につける。
 観察記録から視点に沿った考察をすることによりレポートをまとめる力を育てる。
 観察からの学びを実習につなげることが出来るようになる。
 附属幼稚園の参加実習体験から自己の課題を知り、学外実習への意欲が高まるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1.人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 |
| <input type="checkbox"/> | 2.知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3.協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 |
| <input type="checkbox"/> | 4.知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。 |

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポートの内容と提出状況	80%		
観察態度と授業参加態度	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。必要に応じて資料を配付します。』					

参考書等

宮内克男 編著『レポート・論文のまとめ方と書き方』川島書店

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、幼稚園教諭の経験を有する教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に提示された観察テーマを理解し観察の視点を考えておくこと。 実習前に事前確認する時間を確保してください。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

- ・観察、指導演習等の日程は附属幼稚園のカリキュラムにより変更することがあります。
- ・授業内容から通常の講義時間帯とは異なることがあります。
- ・レポートの提出は原則として次回までとします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画 附属幼稚園見学
第2週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第3週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第4週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第5週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第6週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第7週	観察実習	・保育者を中心とした観察 「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察する」他
第8週	観察実習	・保育者を中心とした観察 「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察する」他
第9週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第10週	観察実習	・環境構成、行事などを中心とした観察 「運動会の練習の様子を観察し、その取組みを考察する」他
第11週	特別講義	わらべうた演習
第12週	観察実習	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第13週	保育制作指導 他	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第14週	保育制作指導 他	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第15週	保育制作指導 他	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第16週	参加実習	・附属幼稚園において2日間参加実習・省察会
第17週	観察実習	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第18週	保育制作指導 他	保育制作発表 絵本の読み聞かせ練習
第19週	保育制作指導 他	保育制作発表 絵本の読み聞かせ練習
第20週	観察実習	・実習生を中心とした観察 「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察する」他
第21週	観察実習	・実習生を中心とした観察 「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察する」他
第22週	観察実習	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第23週	観察実習	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第24週	観察実習	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第25週	観察実習	・子ども、グループ、他者とのかかわり、保育者の配慮・動きなど自由にテーマを決めて観察
第26週	保育制作指導 他	保育制作発表 制作した教材を使用した発表
第27週	保育制作指導 他	保育制作発表 制作した教材を使用した発表
第28週	まとめ	1年間の振り返りと実習事前指導
第29週	「教育実習」の事前事後指導	1年次の10月に行われる実習報告会に参加する 2年次の前期に実習の心得と日誌及び指導計画の書き方等について学ぶ 2年次の10月に行われる実習報告会に参加する
第30週	特別講義「伝承遊び」	2年次の後期に実施する特別講義で、伝承遊びについて学ぶ

授業科目	教育実習						
担当教員	田中 住幸 / 松井 亜樹 / 森川 由衣	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2606			ワデマド科目	

授業概要

本学との協力幼稚園（私立）において8月～9月に3週間教育実習する。
 既習の保育理論・関連科目を生かして、幼稚園現場で実践学習する。
 毎日の実習に当たっては指導教諭との相談を密にして、事前準備する。
 実習内容は実習日誌に整理し、担当教諭の指導を受け、自己評価していく。
 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

社会人にふさわしい態度を身につける。
 目標を持って毎日の実習に臨める。
 実習内容を実習日誌に反映して記述できる。
 楽しく、元気に実習できる。幼稚園を知る。子どもから幼稚園教諭の在り方を学ぶ態度を身につける。
 幼稚園の役割・意義・幼稚園教諭の仕事を実感として受け止め、これからの学習に向け、課題意識と具体的課題を持ち、幼稚園教諭としての仕事を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1.人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 |
| <input type="checkbox"/> | 2.知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3.協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 |
| <input type="checkbox"/> | 4.知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。 |

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習園の評価	50%		
実習日誌	25%		
実習報告書・報告会への参加	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『これで安心!保育指導案の書き方 実習生・初任者からベテランまで』 開 仁志著 北大路書房

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は実務の経験を有する教員が実践的指導を行います。

実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
実習に入るまでに『幼稚園教育要領』を熟読しておく。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実習園との実習事前打ち合わせ、実習後の実習日誌受取りや園行事などに十分配慮する。
 事前指導については、「教育実習」と「幼児教育の方法と技術」の中で関連させ進める。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	実習前事前学習	8月下旬～9月中旬（3週間）協力幼稚園で実習する前に事前学習をして実習に備える。
第2週	実習園との事前打ち合わせ	事前打ち合わせで教育課程、保育環境、組織体制を理解する。
第3週	観察・参加実習	実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。 実習内容を実習日誌として記録する。
第4週	観察・参加実習	1日の保育の流れを知り、担当教諭の指導のもと必要な活動を行う。 実習内容を実習日誌として記録する。
第5週	観察・参加実習	保育全般についての見学・観察・参加活動を行い、子どもの実態を把握する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第6週	部分実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を立案する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第7週	部分実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を作成する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第8週	部分実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を完成、実践する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第9週	完全実習	担当クラスで実習生としての仕事全般を実習する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第10週	完全実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を立案する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第11週	完全実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を作成する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第12週	完全実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を完成する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第13週	完全実習	担当教諭の指導のもとに指導計画を実践する。 実習内容を実習日誌として記録する。
第14週	巡回指導	教員による巡回指導を受ける。 実習内容を実習日誌として記録する。
第15週	事後指導	課題を整理し、実習報告書作成する。実習報告会に参加し、発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		